
ゼンブ、オレノモノ。

雲霧 柚留

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼンブ、オレノモノ。

【Zコード】

「N4670」

【作者名】

雲霧 柚留

【あらすじ】

病んでる帶人に愛されてください。簡単で10話で完結する予定。

フランタマスター。トモスキテス。（前書き）

始め。

「フレタマスター。」モスキテス。

貴「ぐすつ・・・ぐすつ」

帯「マスター、どうして泣くんですか？」

貴「彼氏に・・・ふられたのつ・・・・・「お前はいらない」つて・・・」

・

帯「そんな人、許せません。でも大丈夫です。俺がいますから」

貴「帯人も好きだよつ・・・・?でも、まだあの人人が好きなの」

ぎゅつ

精一杯の力で抱きしめた。あいつのことなんて忘れてしまえ。
僕がいる、僕はアイツより何倍もマスターのことを愛している。

貴「帯人・・・私、あの人のことは諦める・・・帯人・・・・・私、
どうすればいいの?」

帯「俺がいます。俺はマスターを愛してます。だから、」

しあわせにしてあげます

(アイツより、俺のことを見ていた)
(マスターを、誰よりも幸せにするのは、俺です。)

フランセタマスター。テモスキテス。（後書き）

ぬわんじゅ「りゅあああ！」

ネエマスター?トナリノホトコタレテスカ? (前書き)

ちよーっと押し倒し入ります・・・

ネエマスター?トナリノオトコタレテスカ?

貴「」

なぜか最近マスターは、何か嬉しいことがあったのか、いつも二口二口している。

俺が聞いても、「別に?」といつて、「まかされる。

ピンポーン

貴「あつ、来た来た!」

男「ちわーっす」

貴「帶人、私の新しい彼氏だよ!」

マスターに彼氏?世界の半分を失つた気がした。
ああ、これで喜んでいたんだ。

貴「ふられたあと優しくしてくれて。私告白したんだ。」

男「一途なところが好きになつたんだ。」

帶「そうですか・・・」

少し話し終えた後、アイツは帰つていった。

貴「じゃあ、来週空けといてね！」

男「ん、わかった。」

許せないマスターは俺のもの
俺のすべて。

ドサツ・・・

貴「帯人・・・・？」

マスターを押し倒して、唇を塞いだ。

帯「許せません、マスターは俺の物でしょう・・・？」

貴「・・・ごめんね・・・別れるね。思い上がりつてた。私には帯人
しかいないもんね・・・」

俺のために笑つてください

(俺以外の笑顔なんて)

(マスターには、要らないでしょう?)

ネエマスター?トナリノオトコタレテスカ? (後書き)

んーなんでしょうこの物体X。

オレイガイノキオク、ゼンブケシタイナ（前書き）

もう・・・

オレイガイノキオク、ゼンブケシタイナ

夜中の2時

むく

帶「・・・マスター、寝たよね・・・」

布団から起きて、マスターの携帯を探す。

帶「男からのメールはみんな削除しなきや・・・」

あたりに、ピッ、ピッ、とケータイのボタンを押す音が響く。

帶「ー?」

由梨ちゃんへ

俺さー、 今更このひのメールで昔の話だな? だー?

今頃寝てるかもしれないけど、 おきてーんだ。

俺、 由梨ちゃんのことがスゲー好き。

だから付き合ひて、 お願い。

返事待ってる。

b/s 枠

・・・・許せない

削除削除削除削除削除削除

このメールは何通も送られていたから、 端から消していく。

マスターは俺だけで十分です

秘密なんて許しません

（帶人？なんか最近ケータイのメールがよく消えるんだけど・・・）

（古いんじゃないんですか？そのケータイ。）

オレイガイノキオク、ゼンブケシタイナ（後書き）

・・・

イタイヨ、マスター・・・(前書き)

自傷ネタ。気をつけてください

イタイヨ、マスター……

洗面所あたりに、鉄の匂いが充満する。赤い色が広がる。赤い色のふちは、すでに赤黒くなってしまっている。

貴「ただい……！」

尋常じやない鉄の匂いに顔をしかめる。……またやったんだ！

帯「おかげり……なさい……ますたあ……」

貴「ダメつていつたのに何でやつたの！？」

帯「さみし……くて……衝動的に……また

貴「傷口洗わなきや……包帯巻き直しだね。」

帯「……やだつ！」

貴「どうしたの？そんなにワガママじやなかつたよね？」

帯「ますたあ……にはつ、俺だけじやなきや……やだ。彼氏は

つ……僕で十分でしょ……？」

ぎゅうつ

貴「そつか……帯人につらい思ひせせちやつたのね……」めん

流れる血にかまわす。私は帯人を優しく抱きしめた。

「…ますたあ…」

貴女は俺のものですから
(俺だけ愛してほしい)
(そのためなら、痛みだって平氣だから)

イターネ、マスター・・・（後書き）

やつひやつたが自傷ネタ・・・。

□□ロガ、イタイヨ、マスター・・・（前書き）

・・・なんか凄い方向に・・・

「 ロロガ、イタイヨ、マスター・・・

今日のしぐれ全部出来ると良いけど・・・

貴「・・・」

帯「どうしましたか？マスター。」

後ろから抱きつかれて、危うく紅茶を落としそうになつた。

貴「帯人、私ね」

帯「？」

貴「お見合い・・・することになつたんだ。」

帯「マスター・・・・・？」

貴「もちろん断つたよ・・・でもつ、親の紹介だし・・・いつまでも一人つて訳にもいかないでしょ・・・・？」

帯「駄目です！マスターは俺のものです・・・誰にも渡しませんっ！」

貴「しかもね、そのお見合いのあとには・・・私の意志は無視して、正式に結婚するんだって」

帯「嫌です嫌です嫌です！」

貴「帯人、なんで分かつてくれないの！？」

帯「マスターこそ・・・なんで、お見合いなんかするんですか・・？」

貴「私だって帯人が一番好き！他の人なんてありえない！でもね・・・」

・

私は親のために・・・居るんだから

帯「そんなにつ・・・親が大事ですか・・・?」

貴「親なんて大嫌いよ。出来ることなら私が殴つてやりたいくらい」

帯「ならなんでつ・・・」

貴「・・・分からない。心の奥で何か望んでいるのかもね・・・」

ぎゅう

貴「帯・・・人・・・?」

帯「お願いです、マスター」

僕以外見ないでください

(心が、痛いよ)

(ここまでマスターが好きなんて、思つてなかつた)

ハロガ、イタイヨ、マスター・・・（後書き）

悲しい・・・

ダイスキナニー、ドウシテ? (前書き)

激短。

ダイスキナニー、ドウシテ?

プルルルル・・・・・・

貴「はい、一ノ瀬です。」

枢「あー? 由梨ちゃん?」

貴「あ、枢くん! お久しぶり~」

枢「お久しぶりじゃねーよ! ヒテヒなあ、メール無視しといて・・・

貴「え? メール・・・?」

ひょいつ

貴「帶人おつ、返してよお」

帶「電話やメールは慎んでください・・・・

ガチヤン

貴「なんでそんなことするのー? 枢くんの電話勝手に切っちゃって

ー

帶「マスター、忘れましたか?」

約束したはずですが

(電話は替わってあげません)
(メールも削除します。)

ダイスキナニー、ドウシテ？（後書き）

短いっ！激短だよコレ

分かる人にはわかるよっし、最後は「マスターイズマイン」の歌詞
から。

セカイナンテ、キエテシマエバイイ。（前書き）

あ、一ネタがあ・・・ねえよお・・・

みんなー私にネタを分けてくれー！（タヒね

セカイナンテ、キエテシマエバイイ。

貴「」

今日はいいことがあつたな。

久しぶりに良介君と会つて、お茶したし。

帯「お帰りなさい・・・マスター・・・」
貴「帯人！ブルーベリー買つてきたよ。」

ぎゅうつ・・・

貴「帯・・・人・・・？」

帯「マスター、あいつ誰ですか？仲良くなしてつ・・・」

貴「ただの知り合いよ。まったく・・・」

帯「じゃあなんでキスしたんですか！」

えつ・・・? なんで知ってるの? ちょっと挨拶代わりに頬にしただけなのに・・・
まさか・・・見てたの!?

「マスター……」

俺が嫌いなんですか？

（マスターの声が聞けるのも、愛されるのも俺だけ……）
（他に愛される奴なんか要らない、それなら俺は……）

セカイナンテ、キエテシマエバイイ。（後書き）

うう・・・自分で感動してたら世話ないよねえ

ダイスキ、ソノコエガトドカナイノ？（前書き）

うう・・・

ダイスキ、ソノコエガトドカナイノ？

あの日から、帯人と一緒にないと、外に行けなくなつた。

女友達は「何？彼氏とか？ちょーカッコいいじやん！」と言つてくれる。（別に嫌じやないけど）

貴「帯人、そろそろ寝よっか。眠たい・・・」

帯「そうですね、マスター。」

夜中

貴（帯人寝たよね・・・？）

帯（マスター寝ましたよね・・・）

由梨ちゃんへ

夜中は寒いだら一ヶビ、
ちょっと来てほしいんだよね。
あいつがいるだろ？だから
来てほしいんだ。待ってるぜ。

貴「極くん、何のよしなのかな・・・？」
帯「マスター？」
貴「ひつ！」

「許せませんね、貴方が他の人に会いにいくなんて」
貴「たい・・・と・・・」

マスター マスター マスター マスター マスター マスター マスター マスター

深刻ナエラーガ発生シマシタ
アンインストールシマスカ?

貴女が裏切るなんて

(二つめのこと)、俺が壊してしまおつか)

（永遠に、愛す事なんか出来ないのに、思い続ける俺は）

ダイスキ、ソノコエガトドカナイノ？（後書き）

「ううう・・・

マスター、オレノコトガ一クイノ? ジャアオレヲケシテヨ。 (前書き)

また激短なモノを・・・

マスター、オレノコトガニクイノ? ジャアオレヲケシテヨ。

マスターが怯えて、俺に近づこうとしない。

・・・それもそうか・・・昨日、ついカツとなつて、アイスピックでマスターの手を刺しちゃつたから・・・

貴「・・・・・」

帶「マスター、出できてください」

貴「・・・・」

ずっとこの調子だ。それだけ怖い思いをさせてしまったのだろうか。

帶「マスター・・・・・」

貴「・・・・・」

帶「・・・・・」

どうして、何で

帶「マスター・・・」

何がいけなかつたんですか

（マスターは俺だけのものつて）
（言いたかつた、だけなのこ）

スキテス、ゼッタイハナサナイカラ（前書き）

最終話。

スキデス、ゼッタイハナサナイカラ

貴「・・・帶人」

やつと許してもらえたのか、名前を呼んでもらえるへりこになつた。

帶「なんですか？マスター」

貴「・・・帶人、大好き・・・だから、どこにもいかないで」

ぎゅつ

帶「・・・俺もです。」

マスターと僕（人と、ボーカロイド）

いつかは別れが来るかもしねい。

それでもいいんです。

ただ、貴女を愛しています

（大好きです。永久に愛します、だから、どこにも行かないで）
（愛してる。もう誰にも心を動かさないから、だから、私を愛して）

スキデス、ゼッタイハナサナイカラ（後書き）

最終的にもう意味が分からなくなつたね
ちょっと最終的にヒロインも病んでる・・・?
両方病んでたら世話無いわ。

あー帶人好きだー
もっと増えると思う・・・たぶん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4670/>

ゼンブ、オレノモノ。

2010年10月9日05時47分発行